

甲賀市生物多様性地域戦略（案）にかかるパブリック・コメントの結果

意見募集期間 令和7年(2025年)1月2日～令和8年(2026年)1月5日
 意見提出者 2名
 意見内容 3項目

※いただいたご意見等については、基本的には原文のままですが、一部表現を変更・要約している場合があります。

番号	ページ (意見照会 時)	計画(案)の 該当箇所	いただいたご意見等	ご意見等に対する市の考え方	修正 の有無
1			私の保有している田に池がありそこにカワバタモロコが生息しています。場所は水口町で、年に一度、環境省の上席自然保護官が観察、研究に来られています。 そのためではありませんが、定期的に草刈りをしています。 私ができる間は何とかありますが子どもはたぶんしません。 その場所は水もなく、イノシシが出てきて数年前から耕作放棄地だからです。 このままだと荒れてしまい、カワバタモロコの観察、研究どころか、その場所に行くことも困難になると思います。 また、そこは県立自然公園に指定され、開発も困難らしいです。 この戦略をスピード感をもって、確実に進めてほしいと思います。 行政を中心に民間がやっついていかないと無理だと思います。近江八幡市の“たねや”のような企業と一緒に何かできればよいと思います。	令和7年11月に「甲賀市生物多様性パートナーシップ制度」を創設しました。この制度は企業や団体等と協定を締結し、連携することで甲賀市内の自然環境や生物多様性の保全・回復・活用に努めることとしています。今後、企業と共に地域と連携し、自然環境の保全等に取り組んでいきます。	無
2	P10	①環境こだわり農業の推進 ②森林づくりと木材の利用・普及	甲賀市の豊かな里山資源を田畑へ還元することで、様々な課題に好循環が生まれると考えています。 竹の成分は、稲作と相性のいい有機資材となります。有機資材は即効性はありませんが、地力向上するため高温にも強くコメの収量・品質を保つことができると言われています。環境こだわり農業の推進、有機農業の推進にもつながり、甲賀ブランドとしてPRできると考えます。 また、竹林が整備されれば獣の住処が里から離れ、獣害の減少も期待できます。水源環境の役割、災害の予防にもつながり、さらに市内の景観もよくなります。 以上のことから農業資材としての竹及び木質堆肥製造場を設けていただきたいです。	竹木を活用する堆肥製造場の設置を市で行うことは困難であります。自然資源である竹を有機肥料として田畑で活用することで、農作物の収量増加や市内の竹林環境がよくなることにつながるなど、様々な好循環を生み出す可能性もあると考えます。このことから、竹の有機肥料としての活用について、関心がある農業者へPRしてまいります。	無
3	P11	⑤歴史・文化的景観の継承と保全	城山をめぐるトレッキングコースを整備することで新たな忍者観光プランの提案と、森林整備が同時に叶うのではないのでしょうか。	多くの方が城山を訪れ、歴史や文化を感じていただけるよう史跡の保存活用との調整を図りながら、登山道の整備や危険木の伐採、観光関係団体等との連携による観光ルートの造成等を図ってまいります。	無